



 Data	2025-124
監督:	フレディ・マクドナルド
脚本:	フレディ・マクドナルド、フレッド・マクドナルド
出演:	イヴ・コノリー/カルム・ワーシー/ジョン・リンチ/K・カラン/ロン・クック/トーマス・ダグラス/ヴェルナー・ビールマイアー/キャロライン・グッドオール

👁️👁️ みどころ

世界初の“お裁縫クライムサスペンス”を“売り”とした、奇妙な邦題の本作は一体ナニ？原題は「Sew Torn」だが、本作のテーマである「針と糸は銃よりも強し！」をあなたはどこまで理解できる？

「お針子」と聞けば、載思杰（ダイ・シージェ）監督の『小さな中国のお針子』（02年）の素晴らしさが強く印象に残っているが、亡き母から「喋る刺繍のお店」と「喋る裁縫箱」を引き継いだ、“人生崖っぷちのお針子”が直面する運命の三択とは？

それは、「1. 完全犯罪（横取り）」「2. 通報」「3. 見て見ぬふり」だが、あなたならどれを選択？そして、本作に見る、選択した後の3通りの怒涛の展開とは？

■□■「お針子」と聞けば絶対アシ！本作のお針子は？■□■

「お針子」という言葉（職業）を今時の若者が理解できるかどうかは知らないが、映画のタイトルで「お針子」と聞けば、その名作は絶対、載思杰（ダイ・シージェ）監督の中国映画『小さな中国のお針子』（02年）（『シネマ5』294頁）だ。お針子や仕立て屋がいたのは中国も同じで、同作では仕立て屋のジイさんの孫娘のお針子役を「中国四大女優」の1人である周迅（ジョウ・シュン）が演じていた。同作で仕立て屋のジイさんが滅張っていたのは、孫娘のお針子が村の娘たちの服を作るミシンを扱えるためだったが、このミシンという機械は何ともすごい代物だ。

「踊り子」のタイトルがつく映画が『伊豆の踊り子』以外にあまり見当たらないのと同じように、「お針子」のタイトルがつく映画も意外になかったが、今回『世界一不運なお針子の人生最悪な1日』という奇妙な邦題のスイス映画が登場！原題は『Sew Torn』だが、

邦題がそんな長ったらしく、ややこしいものになったのは一体なぜ？また、チラシにはさまざまな色の糸を結びつけて釣り上げている1個の拳銃が映し出されているが、これは一体ナニ？

■□■ “お裁縫クライムサスペンス” 登場！それってナニ？ ■□■

本作の見出しには「世界初の“お裁縫クライムサスペンス”登場」とある。しかし、「お裁縫クライムサスペンス」って一体ナニ？また、本作のパンフレットの introduction には、「針と糸は銃よりも強し！？人生崖っぷちのお針子の運命の3択を描いた“お裁縫クライムサスペンス”」と書かれている。そして前記の拳銃の写真を見れば何となく想像できるが、それって一体ナニ？さらに、“運命の3択”って一体ナニ？

■□■ 運命の3択とは？ ■□■

本作冒頭、スイスの山中にある小さな町でお針子をしているバーバラ・ダゲン（イヴ・コノリー）が、唯一の肉親だった母親を亡くし、譲り受けた“喋る刺繍”のお店を店じまいしている姿が登場する。続いて、バーバラが常連客のグレース（キャロライン・グッドオール）との約束に遅刻した上、ドレスを仕上げる大事なボタンを紛失して激怒させたため、バーバラがボタンを取りに店に戻るシークエンスが登場する。

ところが、その途中で血まみれに倒れた男が2人、破れた白い粉入りの紙袋、拳銃、そして大金の入ったトランクが散乱する事故現場に遭遇したから、アレレ、アレレ！さあバーバラはどうするの？そう思っていると、スクリーン上には3つの選択肢が示される。それは「1. 完全犯罪（横取り）」、「2. 通報」、「3. 見て見ぬふり」の3択だが、さあバーバラはどうするの？

何じゃこれ！？今ドキの安物のTVバラエティ番組は、やたら視聴者参加型のクイズ方式による構成が増えているが、本作もそれ？人間は誰でもいつでも、いくつかの選択肢の中から1つの選択肢をしているが、それは時間軸を考えれば仕方ないもの。しかるに、本作は上記の3つの選択肢に沿って、3つの物語で構成するものだから、そのユニークさにびっくり！しかし、お針子を主人公にそれをどのように映画にするの？

■□■ 針と糸は銃よりも強し？！その現実味は？ ■□■

本作のパンフレットには、「奇抜で唯一無二！」「独創的！」「非の打ちところのない完璧な職人技！」「タイムスリップの仕掛けが巧みに盛り込まれた、素晴らしいクライムスリラーだ。」「まさに逸品だ。完璧な職人技が光る、最高に楽しめる作品だ。」等々、たくさんの「Review」が並んでいる。本作がこのように高い評価を受けたのは、本作が仕掛けた3つの選択肢やタイムスリップ、クライムスリラー等の要素が独創的だからだ。しかして、本作がそれを成立させることができたのは、何と言っても崖っぷちお針子バーバラの、喋る裁縫箱から取り出した針と糸を操る技術が優れていたため、つまり、その針と糸が銃よりも強かったためだ。

店への帰り道で突然遭遇した前記の事故現場でバーバラが見せる最初の選択は、完全犯



罪（横取り）だが、
まずはそこでバーバラが見せる「針と糸のテクニク」に注目！そこで彼女が仕掛けたのは、針と糸を駆使して二人の男に相撃ちをさせるものだから、すごい！そう絶賛したいところだが、残念ながら

バーバラが針と糸を駆使してみせるそのテクニクをしっかりと理解できる観客は少ないのでは？バーバラの天才的な針と糸のテクニクに沿って、ストーリーはハイスピードで展開していくが、残念ながら私には、なぜ針と糸だけで二人の男が相撃ちする状況を作り出したのが全然理解できなかつた。

ちなみに、「キネマ旬報 2026 年 1 月号」の「Review 外国映画」で、野中モモ氏（ライター・翻訳家）は「お針子の職能を活かした細工で状況を打開するアイデアに最初はハッとさせられたものの、次第にそんな細い糸ではさすがに無理があるのではと思ってしまっていまいち乗れず。」と書いているが、私も全く同感だ。

■□■三つのストーリー構成も難解かつ陳腐！？■□■

本作導入部では、バーバラがあのような事故現場に遭遇した場合に、3つの選択肢があると設定されているが、私にはその設定自体にあまり説得力が感じられない。つまり、バーバラの選択肢は当然それ以外にも何通りもあるはずだ。さらに、3つの選択と限定した場合でも、そのそれぞれのストーリー展開も無数にあるはずだ。

それはともかく、本作ではバーバラが最初に「完全犯罪（横取り）」を選択したケースのストーリーとして、使用した針に店名「ダゲンの店」と刻印されていることに気づき、慌てて現場に戻る展開となっていく上、そこからさらに意外な展開が次々と描かれていく。しかし、バーバラが第一の選択たる「完全犯罪（横取り）」を選択したら、なぜ必然的にこんな展開になっていくのが私にはさっぱり・・・

それは、第2の選択「通報」でも、第3の選択「見て見ぬふり」でも同様だ。そう考えると、何よりも本作の売りである「3つの選択」を描いた、崖っぷちお針子の運命の3択を描いた“お裁縫クライムサスペンス”という本作の基盤自体が崩れてしまうのでは・・・？そのため、本作についての私の採点は、残念ながら、星3つ。

2025（令和7）年12月26日記